

## 今週のメニュー

## ■トピックス

- ◇「環境時代のビルディングエンベロップを考えるシンポジウム -IN 東大-」  
～省エネ・健康リフォームをいかにして普及させるか～  
－開催報告－

## ■随想

- ◇フィレンツェ便り（その3）  
－イタリア秋の味覚：栗祭りにトリフ祭り－

関東学院大学 織 朱實

## ■編集後記

## ■トピックス

- ◇「環境時代のビルディングエンベロップを考えるシンポジウム -IN 東大-」  
～省エネ・健康リフォームをいかにして普及させるか～  
－開催報告－

去る、11月20日、伊藤国際学術研究センター（東京大学内）において、「環境時代のビルディングエンベロップを考えるシンポジウム」を開催し、約300名の方々にご参加をいただき盛況の内に終了致しました。

この「環境時代のビルディングエンベロップを考えるシンポジウム」は2012年にスタートし、今年で三回目の開催となりました。住宅・建築の外皮を多面的・複眼的に捉え、環境時代の外皮に相応しいものを見つけ出すヒントを得ようというのが、このシンポジウムの開催趣旨です。昨年は、大きな改正があった住宅・建築物の省エネ基準を取り上げ、住宅の断熱水準について議論しました。しかし、そこで対象とした建築物は新築住宅が中心であり、ストックが全国に5千万戸あると言われる既築住宅については議論されませんでした。ストック住宅を考える上で省エネ、断熱は一朝一夕にできることはありませんが、今後のエネルギー問題を考える上でも非常に重要な問題となってきています。

国土交通省や経済産業省では断熱リフォームや高性能建材に対して補助金や税制優遇の他委員会の設置を行っていかしたら省エネ改修が進むかを検討しています。こうした背景から今年度は、既築住宅の省エネ・健康リフォームについて集中的に議論していただきました。

前半では、シンポジウム全体の代表、コーディネーターの坂本理事長の開会のご挨拶に続き、元国交大臣の前田武志参議院議員、経済産業省住宅産業窯業建材課の寺家課長よりご挨拶をいただきました。

続いて3名の講師の先生よりご講演をいただきました。



講演会の様子

住宅技術評論家の南雄三先生は、「既存住宅をどうすれば健康で省エネに改修できるのか」と題して「中古流通を活発にする（補助金事業等）」「リノベにも省エネをのせる」「健康な温熱環境の啓蒙」「断熱施工技術の普及」「工法・建材の標準化」の5つをキーワードとする提案をされました。

(株)寺尾三上建築事務所の寺尾先生からは、「省エネリフォームの魅力を住まい手と伝える」と題して共同住宅と戸建住宅の実践例を示された上で、進まない原因を「認知度の低さ」「興味を持ってくれた人へのフォロー体制の低さ」「コンサルタント業務に対しての社会的認知度の低さ」をあげられ、特にコンサルタント業務の重要性を述べられました。また、「暮らすに値する生活空間を得る」ためにリフォームを薦めたいとも提言されました。

(株)アール・アイ・エーの花牟禮先生からは、「高経年住宅団地省エネリフォームの実践と合意形成」と題して多摩 NT エステート鶴牧での 29 棟 356 戸の共同住宅の「壁の外断熱」「屋根の外断熱」「開口部の断熱化」「高圧一括受電」について説明されました。次世代を見据えた改修を勧めることにより、世代交代による団地の活性化や若年世代の購買意識を促す商品価値のある団地を作ることが安心して快適に長く住み続けることに繋がると提言されました。

後半は、パネルディスカッションが行われましたが、坂本代表から問題提起として、エネルギー消費量、断熱と健康、ストック住宅の現状を説明され、またパネリストの方々を紹介されました。次いで今回はモデレーターとしての南先生に加え、喜多ハウジング(株)の喜多会長、(一社)プレハブ建築協会の浴野代表幹事、(一社)住宅医協会の三澤理事、(株)LIXIL の吉田部長、日本モーゲージサービス(株)の鵜澤社長にご登壇いただきました。議論に先立ちこの5名のパネリストの皆様から、それぞれの会社・団体における省エネリフォームの取組みについてご紹介をいただきました。



パネルディスカッションの様子

住宅リフォーム専門業の喜多会長からは、全国リフォームコンクール 29 年連続受賞の実績の中から、優れた建材の採用や独自の工法による省エネ・健康リフォームについて紹介いただき、実践されている現場力、プレゼン力、サービス力を基本とするコアコンピタンス経営についても紹介いただきました。

プレハブ建築業の浴野代表幹事からは、プレハブ建築協会の取組状況を紹介いただき、課題として改修の手間に見合うコストバランス、所得税メリットの為には家の全体改修が必要となってしまうことを挙げられ、普及策として、部分改修でも快適になる方策の提案、そしてリフォームを資産価値評価する事例をあげ、その価値向上が必要であるとの紹介をいただきました。

建築設計業の三澤理事からは、住宅医としての建物診断の調査、手法について、そして「構造を満足させ景観を残した快適な空間作り」の実践例を示され、それに取り組むための人材育成の重要性についての紹介をいただきました。

建材業の吉田部長からは、省エネに役立つ建材を紹介され、自社データからその商品が伸びた要因について解説されました。また、既築住宅の意識調査からは、住宅の性能を見える化（住宅インスペクションの普及）することでストック住宅の流通とその先の改修リフォームの活性化が見込まれると紹介いただきました。

住宅金融・保険業の鶴澤社長からは、住まい方として、人生のそれぞれのステージに合った家を探して住み替えることを提案し、その観点で、基本がしっかりして自由度が高い家、独りよがりの設計にならない家となることが重要あり、また、人に貸すということで、結果として外部評価に晒され、客観的な資産評価につながることを指摘いただきました。

パネルディスカッションでは、「現場で作業する職人を育成して現場力を高めることがカギ」と訴えた喜多氏、「全体改修だけでなく部分改修も含め可能な範囲で住まいの快適性を高めること」を指摘した浴野氏、建築病理学の観点から「治す力を持った住宅医の育成が急務」とした三澤氏、断熱改修に関する消費者意識結果から「消費者が納得できる説明やお買い得感が大切」とした吉田氏、「補助金で下駄を履かせるのではなく、経済合理性でリフォームが進むようにすること」の重要性を強調した鶴澤氏、そして南先生のモデレートにより活発な議論がかわされました。最後に坂本理事長が「10年まえと隔世の感があるエキサイティングなシンポジウムだった」と述べて議論を締めくくられました。

最後になりましたが本シンポジウムが、少しでも住まう人の居住環境の向上にお役に立てることを願い開催報告とさせていただきます。

## ■ 随想

### ◇フィレンツェ便り（その3）

#### ーイタリア秋の味覚：栗祭りにトリフ祭りー

関東学院大学 織 朱實

8月からフィレンツェにアパートを借りての短期留学の予定が、諸事情で日本とフィレンツェを行ったり来たりしながら調査を行う生活も4カ月経過をしました。イタリア語も、街の中に書いてあることくらいはわかる程度のレベル位には慣れました。

日本でも、秋は食欲の秋で美味しいものがいっぱいですが、フィレンツェから北にかけてイタリア北部は、山のものが美味しいので有名！ということで、フィレンツェの北東70Kmのところにある山あいの小さな町、マッラーディ（Marradi）の栗祭り（Sagra delle Castagne）に行ってきました。こちらは、フィレンツェからローカル線に揺られて、1時間15分、山間の本当に小さな村です。栗の産地として有名ですが、ここで毎年10月の日曜日に「栗祭り」が開催されています。普段は静かな村だと思うのですが、この日は人・人！で大賑わいです。特に何かイベントがあるというわけではないのですが、地元の人たちの路上での音楽演奏やマジックショーなどを観ながら、焼き栗とホットワイン、マッラーディ特産の栗の粉を使った焼き菓子、クレープ、マロングラッセを食べ、栗の木の工芸品や自家製ジャムのお店をひやかしながら、お天気の良い秋の一日をのんびりと過ごすという感じでしょうか？



焼き栗も直火！みんな陽気で楽しそうです



ところで、栗にワインというのは、日本人にはあまりしっくりきませんが、こちらの焼き栗は日本のように甘くなく、むしろほっこりしていてフルーツとスパイスをいれた甘いホットワインのおつまみにはぴったりです！



みたらし団子ではありません。  
焼き栗の砂糖かけです。

そして、PCBの調査で行ったイタリアのトリノの近郊のアルバでは、同じ時期にトリフ祭りを行っていました。トリフといえば、日本では黒トリフしか見かけませんが（それでも高級）、イタリア人に言わせると「白トリフに比べれば、黒トリフなんて～」というくらい、白トリフは匂いが強烈で、それゆえに超高級品（小さな塊で1万円くらい。ちょっと大きくなると10万台）！この白トリフをどっさり入れたパスタやリゾットに、ピアモンテ州名産のバローロの赤ワインをいただくというのは最高の贅沢ですね（トリフの塊は高いのですが、アルバでいただくトリフを上にかけてパスタ、リゾットは、「これでもか！」というくらい白トリフスライスがのっていても2-3000円とお手頃です）。



トリフ祭りは、体育館のようなホールに、白トリフのお店とワインのお店がずらーっと展示され、試食、試飲し放題という『食べるだけ、飲むだけ』のお祭りです（笑）。入場料を払うと、首から下げる袋にワイングラスを1個いれてくれて（これはお持ち帰りできます）、会場をこのワイングラスに注いでもらいながらまわります。とにかく、白トリフの匂いが強烈で、会場に入った瞬間からくらくらします。匂いを肴にして赤ワインを飲めるくらいです。



トリノは、フランス国境に近いこともありイタリアの中ではフランスの様な雰囲気なたたえたとても素敵な街です。



(左：モーレ・アントネッリアーナの塔)

カフェ文化が盛んで、ステキなカフェが沢山あります。とても素敵な街なのですが、私はなんとここの高級ホテルで南京虫の被害にあったのです。見本市が近いせいもあり、ホテルの価格は1泊2万5000円近く、そんなホテルで南京虫？という感じですが、温暖化の影響か最近では欧州の高級ホテルでも南京虫が現れているそうです(たぶん、電車とかで付いて来ているのだと思います)。



これが、本当に大変でした。最初は、虫刺され？と置いていたら半日くらいしたら赤く膨れ上がり、痒さが尋常でなく、薬局で『南京虫では？(bedbug)』と言われ、かゆみ止めをもらいましたが、とにかく痒くて、痒くて！すぐに、クローゼットに入れていた洋服を(クローゼットの中から取り出した毛布に1匹いたようなのです。その1匹は娘がベッドの上で何気なく『小さなコクゾウムシ？』という感じでつぶしたら、血がべっとりでできたそうです)、袋にひとまとめにしてその場で捨ててもらい、部屋を変えて～。

フィレンツェに戻ってからも、かゆみが継続し、帰国した病院でもらったお薬でようやく沈静化(日本の医薬品の効果は素晴らしいですね)、この後、ホテルに宿泊代返還請求、保険会社に破棄した服の補償請求等なんだかんでひと月くらいメールのやり取り、病院の証明書の送付等かかりましたが、最終的には全額支払いをしてもらいました(ホテルは、もちろん「南京虫はいませんが、返金します」というスタンスでしたし、保険会社は『クリーニングができずに、破棄しなくてはならなかった』という状況を説明しなければならなかったため、写真や南京虫を一度家に持ち帰るとどんな大変なことになるかのネット情報を提示したりと大変でしたが)。

とにかく、今回の教訓はイタリアでは先にお金を払ってはいけません！今回返金されたのは、駐在員の方からすると「イタリアではありえない！奇跡のようだね」ということらしいです。そして、どんな高級ホテルでもベッドをまずチェックすること！(南京虫は、ダニとかと違い目で判別できるくらいの大きさなので)ベッドを点検したあと、はじめてスーツケースをあける、ということでしょうか。グローバル化が進むと、移動が楽になるのは人間だけでないので要注意ですね。

今回は、イタリアのクリスマス、年始の様子をお伝えできると思います。

⇒ [メルマガ・バックナンバー](#)

## ■ 編集後記

W杯ジャンプで42歳の葛西選手が、今季初優勝を挙げ自身の持っている最年長記録を更新しました。7回目の出場となったソチオリンピックで銀ではありましたが念願のメダルを初めて獲り、その際に「完璧なジャンプをして金メダルを獲りたい気持ち強い」と言っていたのが印象的でした。その後、結婚もされ気持ちに変化があっても不思議ではありませんでしたが、さすが“レジェンド”です。次回の45歳でのメダルも決して夢ではないようです。(風蘭)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)